

万博の森 見どころMAP

今月の

身近な自然を探しに出かけよう！「三つの密」を避けながら、マップを片手に夏の万博の森を楽しんでくださいね。

※開花や出現時期は気候条件等により変動します。詳しくはお問い合わせください。

植物 一花から実へー 大きな木の下は涼しい木陰。見上げると、だんだんと熟していく花や実が観察できます。

1 エンジュ

マメ科 落葉高木



7～8月にかけて咲く花は、枝先にまとまって淡い黄色のチョウウ型をしている。9～10月、長さ4～7mmの実が枝先から垂れ下がる。種子の間がくびれて、まるで数珠のように見える。

2 シナサウグルミ

クルミ科 落葉高木



5月、ともに尾のように垂れ下がった淡緑色の小さな花が多数つく。花には雄花と雌花がある。9～10月、長さ20～30cmの果穂はかんざしのように垂れ下がり、熟した実には長い翼がある。

3 トチノキ

ムクロジ科 落葉高木



初夏、1～2cmの白い4弁花が鈴なりに咲く。花穂は上向きで高く立ち上がり遠くからでもわかる。日本で自生している樹木の中で最も大きい花の一つ。9月、ツバキに似た実は、熟すと厚い果皮が割れ1～2個の大きい種子を落とす。

4 ベニバナトチノキ

トチノキ科 落葉高木



アカバナトチノキとセイヨウトチノキ（マロニエ）の交雑種。5月、八方に広げた葉の先に房状の赤色の花がずっと天に向かって伸びる。花の色が鮮やかなことで街路樹、公園樹として利用されている。実は球形でトゲがあり、熟すと裂ける。

いきもの ー大きい魚、小さい魚ー 暑い夏でも水の中は涼しそう。園内の池や川で探してみよう。

5 ソウギョ

コイ科 約100cm



中国原産で、大きいものでは体長2mを超える。コイに似ているが、丸く小さい背びれや、大きな鱗が見分けのポイント。水草や水面に垂れ下がった雑草を食べるベジタリアン。

6 コイ

コイ科 約60cm



中央アジア原産で、日本にも古くから生息している。2対の口ひげが見分けのポイント。雑食性で、魚やエビ、貝、水草など水中にあるものはなんでも食べる。

7 メダカ (ミナメダカ)

メダカ科 2～4cm



日本固有種で、近年数が減っている。上から見ると目立つ大きな目が見分けのポイント。池や沼、流れのゆるい場所で群れになって泳ぎ、プランクトンや小さな昆虫などを食べる。

8 モツゴ

コイ科 約8cm



体の黒い線が見分けのポイント。顔が細長くて口が小さいので「クチボソ」ともよばれる。環境の変化や水の汚れに強く、園内でもいろいろな池で見かける。

スタッフおすすめ避暑スポット

上津道を歩く 中央口～西口

園内の主要な園路（上津道、中津道、下津道）のうち、一番外側を通っているのが上津道。一年を通して常緑樹の葉が茂り、木陰が続く道です。中央口から西口まで歩くと約30分。



熱中症に注意！

- 帽子をかぶるなど、直射日光を避けよう
- 定期的に水分やミネラルを補給しよう

虫さされに注意！

- 草むらなどに入るときは長袖長ズボンがおすすめ。虫よけスプレーなどの対策をしよう